

縄文人の暮らしや文化を体験する、第4回とうや湖縄文まつり（同実行委員会主催）



たいまつ点火によるオープンセレモニー

が、7月16日入江貝塚公園で開かれ、火おこしやイタドリ笛作りなどの体験や縄文ペタンクなどのミニゲームを行い、縄文の世界とふれ合いました。

たいまつによる点火のオープンセレモニーに続いてアフリカ太鼓グループ「トヤトヤ」の演奏と踊りでスタート。

火おこしコーナーでは、なかなかおきない火に、子供らは悪戦苦闘。昼食時には、地元ホタテや鮭などで作った縄文鍋も販売され、おいしそうな笑顔が広がっていました。

縄文人の暮らしを体験 第4回とうや湖縄文まつり

温泉中学校環境教育実施 中島でエゾシカの現状を学ぶ

7月17日、洞爺湖温泉中学校は、中島周辺のエゾシカの現状を知る環境学習を、総合学習の一環として行いました。

身近な自然にふれ、地域の自然の大切さを知ろうとの目的で全校生徒25名が参加。

中島のエゾシカの調査を行っている酪農学園の学生らをガイドに、大平原まで踏査し、エゾシカの観察や中島の植物への影響などについて話を聞きました。

この後学校に戻り、エゾシカの環境への影響や中島と学校周辺の相違などを話し合いました。



中島で環境について学ぶ洞爺湖温泉中の生徒たち

三重の塔と大黒天で 湖上安全と観光振興を祈願

7月21日、洞爺湖中島三重の塔安泰並びに洞爺湖温泉観光振興安全祈願祭（同保存会主催・大西英生会長）と洞爺湖中島大黒天例大祭（同奉賛会主催・三浦和則会長）が行われ、町長、町議会議員、観光関係者ら約50人が参加して、湖上の安全と観光事業の振興を祈りました。

最初に三重の塔の近くで遊覧船の船上から、安全祈願祭が厳かに執り行われ、参加者が玉ぐしを奉てんしました。引き続き中島に渡り同例大祭が行われ、53年ぶりに改築を行



厳粛に行われた大黒天例大祭

った大黒天の御堂の前で、参加者一人ひとりが、洞爺湖温泉の発展を祈りました。



あか牛丼の給食で笑顔がひろがるとうや小学校の6年生

昨年の12月に続いて、7月23日町内の小中学校の給食に、地場産のあか毛和

牛を使用した「あか牛丼」が出され、子供らはその美味しさを堪能しました。

ブランド化をめざすあか毛和牛を知ってもらおうと洞爺湖地場産品協同組合（長崎良夫代表理事）が、学校給食センターに牛肉45*を提供し実現しました。

この日は、町内統一献立として、牛丼以外に地場産の春雨サラダや噴火湾産ホタテ入りみそ汁など地元の特産品が取り入れられ、洞爺湖町産一色の給食になりました。

あか毛和牛の牛丼給食に登場 子どもら町の特産品を味わう

まちのわだい